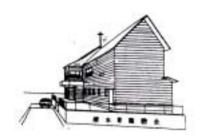
≪今朝の聖書から≫ "イエスは弟子たちに言われ た、「罪の誘惑が来ることは避けられない。しかし、それをきたらせる者は、わざわいである。」"という御言葉から書き始め られています。私たちが毎週、祈りとして捧げている り"に"試み"という言葉が出てきますが、実にこの誘惑のこ とです。試みと言いますと、"試練"のような"苦しい目に合 わせられる事"を思い浮かべることもあります。また"いざない"という言葉で示されるような"招き"を思い浮かべる事も あります。"誘惑に誘われること"は誰でも知っています。ま ず、誰でもこの誘惑には陥りやすいということに心を留めまし う。聖書はローマ6章23節で "罪の支払う報酬は死であ と言っています。1~2節と強い言葉が続きます。人の 思いか、人の心に潜む悪か、いずれにしろ、誘惑は人を通して、 あるいは、人と人との関係を通してやってきます。徹底的に"兄 弟姉妹を悪に導いてはいけない"と御言葉は教えています。と ころで2節にある"これらのちいさな者の一人"は何をさして いるのでしょうか。教会の指導者にとっての兄弟をさしている ことに気付きます。今で言いますと、教会役員の悔い改めと、 赦しについて最も端的に示しているといえるでしょう。5~6 節に進みましょう。弟子達も、主に対する信仰が、主の一方的 な賜物であることは判っていたことは確かです。"増し加えて 下さい"という言葉が示している通りです。"からし種"はと ても小さな種ですが、どんなに小さなもののように見える信仰 であっても、神のものである以上、無限の力があることを示し ています。もし"からし種のような信仰"を未熟な、または"小 さな信仰"と理解したら間違いです。"抜け出して海に植われ (6節)"という事が実現される以上に十分なのです。信仰の 大きい・小さいということを、何かの理由にすることが間違い なのです。次の教えがそのことを物語ります。7節に進みまし ょう。"あなたがたのうちのだれかに、耕作か牧畜かをする僕 があるとする。その僕が畑から帰って来たとき、彼に『すぐき て、食卓につきなさい』と言うだろうか。"という仮定です。 私たち、特に信仰者として、長く教会生活をおくってきた者で すら"すぐきて、食卓につきなさい"と言ってもらいたくなる 時があると、イエス様は教えておられるのでしょう。このよう に思ったら小さな者の"つまずき"になることははっきりして います。"わたしたちはふつつかな僕です。すべき事をしたに 過ぎません"と言えるようになりますように(10節)。

週報

2007年 10月 7日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。 使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校 毎日曜日 午前 9:00 礼拝式 毎日曜日 午前 10:30 (聖餐式 第一日曜日) 夕礼拝式 毎日曜日 午後 7:00 エステルの会 午前 10:30 毎水曜日 午後 7:00 http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26 **©054-345-4070** E-Mail grace@big.jp 牧師 村上定幸